

7-1-1号池 ハザードマップ

7-1-1号池（沈砂池）ハザードマップ

このマップは、7-1-1号池が地震等の原因により決壊した場合、想定される浸水区域・浸水深、氾濫流の到達時間、避難所・避難方向等を示したものです。

万が一ため池が決壊した場合、短時間に大量の水が押し寄せるとともに水の流れが非常に強いので、浸水する前に一刻も早く近くの避難所や高台に避難して下さい。

このマップをもとに、日頃から避難所・避難路や近くの高台への経路を確認しておくとともに、万が一の際には早めの避難を心がけましょう。

ハザードマップの作成条件等

マップに示した浸水区域・浸水深、氾濫流の到達時間は、満水位の状態にある7-1-1号池が決壊し、ため池内の貯水量が全て下流に流出した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。

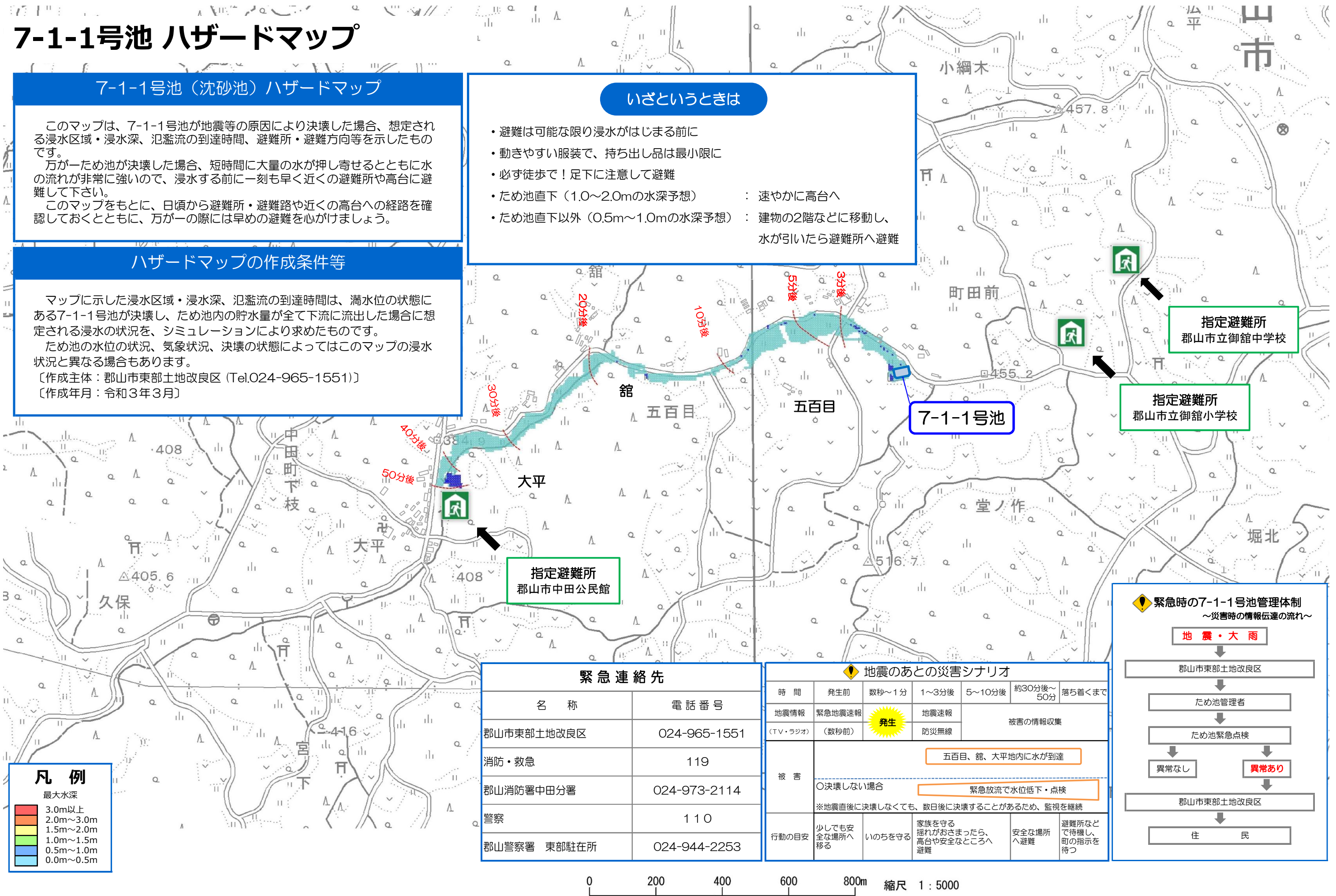
ため池の水位の状況、気象状況、決壊の状態によってはこのマップの浸水状況と異なる場合もあります。

〔作成主体：郡山市東部土地改良区（Tel.024-965-1551）〕

〔作成年月：令和3年3月〕

いざというときは

- 避難は可能な限り浸水がはじまる前に
- 動きやすい服装で、持ち出し品は最小限に
- 必ず徒歩で！足下に注意して避難
- ため池直下（1.0～2.0mの水深予想）：速やかに高台へ
- ため池直下以外（0.5m～1.0mの水深予想）：建物の2階などに移動し、水が引いたら避難所へ避難



凡例

最大水深

- 3.0m以上
- 2.0m～3.0m
- 1.5m～2.0m
- 1.0m～1.5m
- 0.5m～1.0m
- 0.0m～0.5m

0 200 400 600 800m 縮尺 1：5000

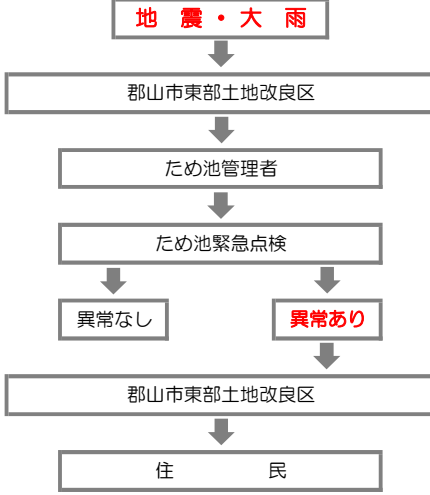
緊急連絡先

名称	電話番号
郡山市東部土地改良区	024-965-1551
消防・救急	119
郡山消防署中田分署	024-973-2114
警察	110
郡山警察署 東部駐在所	024-944-2253

地震のあとの災害シナリオ

時 間	発生前	数秒～1分	1～3分後	5～10分後	約30分後～50分	落ち着くまで
地震情報	緊急地震速報	 発生	地震速報	被害の情報収集		
(TV・ラジオ)	(数秒前)		防災無線			
被 害	五百目、館、大平地内に水が到達					
	〇決壊しない場合 緊急放流で水位低下・点検					
	※地震直後に決壊しなくても、数日後に決壊することがあるため、監視を継続					
行動の目安	少しでも安全な場所へ移る	いのちを守る	家族を守る 揺れがおさまったら、 高台や安全なところへ避難		安全な場所へ避難	避難所などで待機し、町の指示を待つ

緊急時の7-1-1号池管理体制 ～災害時の情報伝達の流れ～



7-1-1号池ハザードマップの見方・使い方

■ハザードマップ作成の目的

7-1-1号池ハザードマップは、万が一の事態でため池が決壊した場合、最大でどの程度の浸水範囲となるかを知るために最悪の状況を想定した浸水予測を行いました。住民のみなさんがハザードマップを通じて、想定される災害を事前に知り、自らの避難を考え、地域の防災力向上につながることを目的にしています。

■ハザードマップの作成条件

現在起こりうる最大の危機を想定しました。7-1-1号池が満水の状態で、貯水量の全量 1.7千トンが下流域に流れ出す場合を想定しました。



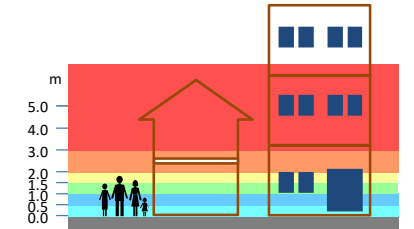
■そうなってからでは遅い！早めの避難

浸水が始まってから行動したのでは、手遅れになる場合があります。あらかじめ、このハザードマップで水がせまりくる状況を学び、万が一の事態が発生した場合の早めの判断、速やかな行動につなげてください。

■ハザードマップに載せる情報

① 場所ごとの浸水する深さ

場所ごとの浸水する深さを色分けして地図上に表示しました。



② 到達時間

ため池の水が到達するまでの時間を表示しました。

③ 避難場所

避難する場所を地図上に表示しました。なお、一刻も早い避難が必要な事態になったときは、指定された避難場所によらず、近くの高台へ避難してください。



④ いざというときの心構え

いざというときの避難に備えて、日常から心がけておく事柄を記載しました。

地図を見るうえでのポイント

- 地図の凡例を参考に、どこにどのような浸水が想定されているか確認しましょう（浸水想定区域では、水だけでなく、土砂や流木、地図上にある様々なものが押し流されてくる可能性があります。）
- 災害の状況によっては、避難所へ向かうことが危険な場合があるので注意しましょう。
- 地図上にある災害シナリオを参考に、災害の発生から避難完了までを考えてみましょう。
- 地図を片手に自分の家から避難所まで歩き、実際の距離感や、災害時に危険そうな箇所（地震時に崩れそうなブロック塀、大雨時に溺れそうな深みのあるところ）や、逃げ込める高台などをあらかじめ確認しておきましょう。